

# しあわせのまち若葉



## 第27号

令和元年 7月発行

【編集】

若葉区支え合いのまち推進協議会事務局

若葉区貝塚2-19-1

(若葉保健福祉センター内)

TEL 043-233-8558

FAX 043-233-8251

## 平成30年度 若葉区支え合いのまち推進協議会報告 「情報共有」から「連携・協力」へ ～地域福祉活動団体発表を実施～

若葉区支え合いのまち推進協議会(以下:推進協)は、社会福祉協議会各地区部会をはじめ、町内自治会連絡協議会、民生委員児童委員協議会、あんしんケアセンター、福祉施設、大学、老人クラブ連合会、ボランティア連絡協議会、地域福祉活動者など様々な団体、個人の全34人の委員で構成されています。

平成30年度の推進協では、お互いの活動を参考にしたり、相互協力による活動発展への期待を込め、区内各団体による地域福祉活動の発表をとおし、情報の共有を推進しました。(発表団体は下記のとおり)

### 東京情報大学

- ◆東京農大の兄弟校。30年前に御成台に設立。
- ◆H29年に看護学部が新設。同時に遠隔看護実践研究センター※を開設。(※遠隔の在宅療養者へのコンタクトシステム。企業との連携により構築)
- ◆看護学部は近隣住民や区内高齢者等を対象に介護相談、健康増進等の地域福祉活動を実施。  
「地域の皆様にはぜひ大学の施設、教員、学生を活用していただきたいです。ご要望ください。」

### 千葉市あんしんケアセンター

- ◆区内5圏域(みつわ台・都賀・桜木・千城台・大宮台)にあんしんケアセンターを設置。
- ◆「総合相談支援業務」「介護予防ケアマネジメント業務」「権利擁護業務」「包括的・継続的ケアマネジメント支援業務」を通じての高齢者支援が役割。
- ◆地域課題解決にむけた地域ケア会議を実施。  
「地域の高齢者やご家族の皆様、どこへ相談したらいいか迷った時には、お気軽にご連絡ください。」

### 生活支援コーディネーター(若葉区)

- ◆千葉市社会福祉協議会若葉区事務所で受託。
- ◆「日常生活で支援が必要な高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備」「地域の中で生活支援及び介護予防サービス提供の体制づくりに向けたコーディネートの実践」が主な役割。
- ◆区内の多様な共助団体の交流会を企画・実施。  
「地域での困り事やこんなサービスがあるといいな等の時は、コーディネーターにお声かけください。」

### 社会福祉法人あしたば中野学園

- ◆本学園は障害者支援の場であり今年で31年目。
- ◆入所、短期入所、通所、グループホーム、放課後デイ、地域活動支援センター等の各事業を実施。また各種行事を通し、地域と連携・交流を図っている。
- ◆地域福祉を支える重要な社会資源として、地域に根差した実践活動の展開を目標としている。  
「先々は高齢者や子供など誰にとっても住みやすい地域づくりの支援をしていきたいと考えています。」

### 植草学園大学

- ◆小倉町に平成11年短大、同20年に大学設立。
- ◆少子高齢化社会を迎える中、地域の介護、保育、教育、保健分野の人材育成に注力。また県生涯大学校を指定管理。高齢者の豊かな人生を支援。
- ◆同29年に市から拠点福祉避難所※として指定。(※高齢者、障害者等の災害時要配慮者対象避難所)  
「学生の人材育成、災害時要配慮者支援活動などを通し、地域連携、地域貢献を目指していきます。」

### 若葉区老人クラブ連合会

- ◆モットーは健康・友愛・奉仕、スローガンは「伸ばそう健康寿命、担おう地域づくり」とし、活動している。
- ◆事業活動の一つに健康づくり・介護予防支援事業(グラウンドゴルフや手芸等)があるが、これらの活動が区内では一番活発に取り組まれている。
- ◆皆様の身近なところでクラブの仲間達が活躍中。  
「住み慣れた地域で互いに支え合い、いつまでも元気に過ごしましょう。お気軽に扉を叩いてみてください。」

## 共通ワードは「地域」。

上梓6団体の共通ワードは「地域」。地域の皆様と手を携え、活動展開、発展を目指されています。各団体へのお問合せは上記事務局までお気軽にどうぞ!

# 「議論を交わす重要性」グループ討議を実施 第4回推進協(2019.3.20(水)開催)ダイジェスト

過日3月開催の第4回推進協では、「地区部会活動の中での課題」と「その課題に対する対応策」について、グループ毎に討議を行いました。活発な意見交換の場となり、各委員からの前向きな提案もありました。地域の皆様にとって福祉活動の参考となるよう本紙にてお知らせいたします。

なお、各地区部会の委員から出された課題は下枠5項目の共通課題として整理され、5グループに分かれて討議が行われました。



## ①中核となっている方の後継者不足

### 【課題の要因】

- ・役員の高齢化が進んでいる。
- ・若手(次の担い手)発掘ができない。
- ・後継者にとって活動のハードルが高い。
- ・地域における住民の過疎化。
- ・地区部会が理解されていない。
- ・退職年齢の高齢化。
- ・ボランティアの心や協調性の低下。

### 【課題への対応策】

- ・民生委員協力のもと人材発掘のアプローチ。
- ・福祉活動が理解されやすい資料の作成や配布によるPR、啓発活動を行うことが必要。

## ②実働部隊の人員不足

### 【課題の要因】

- ・地区部会、民生委員等のボランティア活動内容を知らない人が多い。
- ・少子高齢化に伴う人口減少、及び担い手の高齢化により実働部隊が不足。
- ・自治会長が1年ごとの輪番制のためか自治会で福祉に対する意識が薄い。

### 【課題への対応策】

- ・先進地域の福祉活動を視察し、ボランティア活動の意欲を高めるようなことを実施することが必要。
- ・自治会総会等での活動PRや連協への協力依頼。
- ・住民へ軽負担、単発行事の参加促進と魅力の共感。

## ③地区部会活動が地域に浸透していない

### 【課題の要因】

- ・努力不足、広報啓発活動が行き届いていない
- ・自治会との協力関係が乏しい。
- ・住民の関心行事が少ない。活動のマンネリ化。
- ・市、市社協サイドの広報不足。会費制度の無理解。
- ・自治会が抱える福祉課題解消に向けた活動が不十分。

### 【課題への対応策】

- ・活動PR映像やSNSなどの活用による広報
- ・バザーや防災など人が集まる興味ある行事、子どもなど多世代を巻き込める行事の開催と行事内での活動PR。
- ・地区部会主催で自治会や民生委員との座談会や会の中で地区部会活動の好事例の共有。
- ・少しずつでも地道なPR活動を続けていく。

## ④他組織との情報共有不足

### 【課題の要因】

- ・地域には多くの組織がある中、民生委員とのつながりはあるが自治会とのつながりが薄い地域が多い。
- ・老人クラブ、NPO団体との関係づくりは難しい。
- ・自治会未加入者増加、若い世代への活動未周知。
- ・本当に困っている人ほど情報把握がしづらい。

### 【課題への対応策】

- ・地区部会の集まりへ自治会や他の組織の方に参加してもらい、活動の好事例や情報を知ってもらう。
- ・新小学1年生に地区部会のPR鉛筆を配付の地域もある。児童、生徒への福祉活動の理解促進も必要。
- ・地域ケア会議実施の地域は多いが、様々な組織と情報共有ができる地域運営委員会設立の検討も必要。

## ⑤拠点がない地域

### 【課題の要因】

- ・大きな地区部会エリアは自治会数、管理組合数が多いが、集会所などの拠点が未設置のことが多い。
- ・自治会で集う場所の確保が難しく、結果、人同士のつながりづくりの難しさにつながっている。
- ・一方で地域の中でのつながりから近隣小学校や公民館、介護事業所のスペースを借りることができ、この課題に問題を感じていない地域もある。
- ・若い世代への福祉活動の未共有も要因の一つ。

### 【課題への対応策】

- ・推進協から市に対して学校の空き教室を地域団体へ貸出の要請や働きかけ。
- ・大きな地区部会エリアの分割による顔の見えづらさの解消。
- ・スポーツ振興会の推進協への参画。福祉活動を幅広い世代に知ってもらえる機会づくりへの期待。
- ・市の空家対策を「空家活用」とし、地域拠点確保。
- ・推進協を傍聴し、知ってもらえるよう各委員からの働きかけ。

## ふくしのことば「地域共生社会」

### 地域共生社会とは…

→制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

【出典：平成29年2月7日 厚生労働省】

とされています。

「皆さんが住みたいまちはどんなまちですか？」  
「そのために皆さんができることは何ですか？」  
お仲間やご近所同士で話してみませんか？

⑤だんの④らしの③あわせ・

